

2025年2月28日(金)9:00からCRTスタジオで収録

生涯現役率向上に向け、社会人への「教育、教育、教育」を！

「人生は青天井、一生青天井」「一生勉強、一生青春」

開倫塾

塾長 林明夫

1. 2024年の出生数は外国出身者を含め72万人、日本人だけだと68万人と、急激な人口減社会が到来。人手不足を補うため、生涯現役率の向上が欠かせません。
2. 人の潜在能力は限りなく、その潜在能力は何歳になっても伸び続けます。正に、人生は青天井、一生青天井です。しかし、そのためには1つだけ条件があります。それが「一生勉強、一生青春」です。一生学び続けることが欠かせません。
3. 今まで社会教育は、家庭や学校を補うことに重点が置かれてきました。今後は、生涯現役率向上、一人ひとりの人生の成功と持続可能な社会の形成のためにも社会教育に重点を置くべきと考えます。
4. 開倫塾では、栃木刑務所の要請で、読み・書き・計算など基礎学力が不足している受刑者や高卒認定試験合格を目指す受刑者に対する指導のため、ベテラン講師を毎年派遣しています。不足する学力を補い、受刑者の社会復帰を支援したいためです。
5. 不登校や落ちこぼれが原因で基礎学力が不足したまま社会に出でしまった人々への教育は急を要します。
6. また、知識が基礎となった現代社会では、高度な仕事をするのに、専門知識と同時に、英語とコンピュータが自由に使いこなせることが不可欠です。
7. デンマークは、変化し続ける社会への対応のために、地元大学等と連携し、社会人への「教育、教育、教育」で失業率をどんどん引き下げています。
8. 高齢者への医療費と介護費用は持続可能な社会をつくる上で最大の課題です。どうしたら「いつまでも若々しく生きる」ことができるかの教育は、これから65歳を迎える人と同時に、既に65歳を迎えたすべての人々にとって不可欠です。高齢者医療費と介護費のたとえ1%を使っても、カリキュラムの開発、指導者の教育、マネジメント人材の確保をすべきです。

9. 障害を持つ方々への本格的な教育は、社会人になってからと考えます。障害者への教育予算の大半を学校教育で使い果たすのではなく、生涯を通じた教育の観点からの予算の配分が求められます。
10. 外国から日本へ移り住む人々への日本語教育も避けて通れません。生活日本語、学習日本語、受験日本語、仕事日本語とレベルに応じた日本語教育を社会の力、つまり、国民の税金で準備したいと考えます。
11. 公立図書館の 365 日、早朝から深夜のオープンは多くの国で歓迎されています。板室温泉の大黒屋の図書室や黒磯のカフェ・ショーゾーの図書スペースは人気を呼んでいます。どの街でも中央市街地の活性化が課題となっています。空店舗や遊休の公共施設を再活用してのミニ図書館つきの無料図書スペース「街角図書館」は、若者だけでなく多くの人々から望まれています。

— 2025 年 2 月 28 日記 —